

Title	長安の春(石田幹之助著, 創元社発行)
Sub Title	
Author	竹田, 龍兒(Takeda, Ryuji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1941
Jtitle	史学 Vol.20, No.1 (1941. 7) ,p.184- 186
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19410700-0184

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

それ／＼九七二頁、八三二頁、六四八頁の大冊で、地理に關する部分が京大地理學教室の吉田敬市氏、近江商人の近世北海道に於ける活躍に關する一章が近松文三郎氏の執筆になる外は、全て前記福尾氏の執筆にかゝると云ふ。

第一巻通説は、自然地理的諸環境の記述を巻頭に、上代より明治維新に至るまでの町史を五編に分けて取扱つてゐる。第二巻志表は、人文地理志、町政志、神社志、寺院志、民俗志、文藝志、災害・騒動志、人物志の八編と詳細な町史年表を収めてゐる。第三巻史料は、町史に關する主要史料を大體年代順に配列し、徳川時代については、之を政治、商工業、金融、運輸交通の四項に分類して収載してある。漢文で書かれた史料には一々句讀訓點が附せられてをり、且つ第一巻通説中の關係記事の條に、本巻所收の史料番號が註記せられてゐるのは甚だ便利である。

何分にも合計二千數百頁に上る大著であるため、全部を通讀する餘裕を有しなかつたが、一瞥するを得た歴史的部分についてだけ云へば、本書の達成せるところは頗る注目すべきものがあるやうに思はれる。本町の歴史は、既に中川泉三氏の名著「近江蒲生郡志」中に所々に於いて可成詳細に取扱はれてゐるのであるが、今それとこれとを比較するに、本書は其後の廿年間に近い時の経過にふさはしい進歩の跡を示すにあますところないやうに思はれる。例へば、今詳しく紹介してゐる餘裕のないのが遺憾であるが、第五編第二編の徳川時代に於ける本町の商工業を論じた部分の如き、「蒲生郡志」の記載に比して量的に數倍するのみならず、よく尨大なる史料を消化して之に極めて整然たる體系を與へてゐる如

き、本書の白眉たるを失はないであらう。京大出身の新進史家福尾猛市郎氏の執筆にかゝるだけあつて、一小都會の商業史を主題としながらも近世商業史の本質的な諸問題に關する多くの示唆を提供してゐるのはさすがである。今日以後、近江商人又は近世の商業史を論ずる者は恐らく必ず本書のこの部分を參看するを要するだらうと思ふ。なほ、福尾氏には別に「近江商人の發生とその發展について」(史林、第二十二卷ノ一、二所載)なる好論文のあることを附記しておかう。

要之、本八幡町史全體を通じて、地方史のまゝ陥入り易い缺點たる視野の狹隘から美事に免れて、歴史の一般的な展開の論理と地方的な具體的史料との美事な綜合を示されてゐる點は、最近刊行せられた地方史中の最も優秀なものの一つとしてよいと思はれる。滋賀縣は從來、牧野信之助氏による滋賀縣史三卷、中川泉三氏の努力になる蒲生、愛智、坂田、等の諸郡志など數多くの優れたる地方史を生み出すことによつて我が國史學界に貢獻するところ極めて大であつたが、今又本書によつて錦上更に花を添へることになつたわけである。(昭和十五年一月五日)(渡邊基)

長安の春

(石田幹之助著
創元社發行)

石田教授の「長安の春」がいよいよ裝を纏して新線と共に世に出た。東西交渉史研究の第一人者として夙に令名のある著者その人に關しては今更申上げるまでもなからう。本書に收むるところは「長安の春」「胡旋舞小考」「當城の胡姬」「西域の商胡」重價を

以て寶物を求める話」再び胡人探寶譚に就いて「隋唐時代に於けるイラン文化の支那流入」長安盛夏小景」の七篇である。いづれも博識多才適くとして可ならざるなき氏が一流の才筆を揮つて「史林」「民族」「佛教美術」等の誌上を飾られた論文であるが、今回本書を纏められるに當つて尠からず舊稿に加筆せられ、或るものゝ如きは面目を一新せるまでに補正されてゐる。小引中に於て「ほんの數ヶ處ではあり、片言隻句の新資料ではあるが錦繡の斷片を縫ひつけたところはあるつもりである」と述べて居られるのは著者自らひそかに期するところあるを力強く表明せられた言葉であらう。絢爛たる盛唐文化の中に見出されるイラン的要素や國際都市長安の華かな生活情景が心憎きまでに鮮かに描き出されてゐる。本書の讀者は「胡旋舞小考」や「當壇の胡姬」等に於て著者が資料として詩文を巧みに利用されてゐる點を先づ注目せられた事と思ふ。絶妙奇抜な詩人の表現に對しては多少の心構へを必要とする事は申すまでもないが、方法さへ誤らなければ立派に之を資料として活用し得る事を前記の諸篇は吾々に教へるものである。

今こゝに各篇の論旨を一々紹介するまでもなからうと思はれるし、ましてそれを批判するなどといふ事は到底筆者の力の及ばざるところであるから、ほんの一二氣付いた事を記して敬意を表する事に致し度い。

唐代支那に流布してゐた西域の商胡が重價を以て寶物を求める説話が多少變形して我が國にまで傳はり、今昔物語や宇治拾遺物語等に收められる事は本書の一二八頁に記されてゐるが、先年増

田涉氏が「幸運兒」なる題名の下に翻譯せられた今古奇觀卷第九の「轉運漢巧遇洞庭紅波斯胡破羅龍殼」なる一篇（改造社世界エーモア全集支那篇及び河出書房世界短篇傑作全集支那印度篇所收）が「民間」所載の第十五「大龜殼」と酷似してゐる事を知つた。兩者の間には話の後半部に相違が認められ「幸運兒」では東洲の波斯賈人が例の如く自分から價段をせり上げて五萬兩で龜甲を買求め、甲の間から廿四個の寶珠を取出して、その一個だけでも本國へ持歸れば、五萬兩になると語る。これをきいて仲間の者は残念がるが分を知れる扇屋の文若虚は後悔するどころか大いに満足したといふのである。話は明の成化年間といふ事になつてをり、賣手と買手との間に、相互契約書が取交はされる件りは同系の他の説話には見えないところである。

もう一つは芥川龍之助氏が「聊齋誌異」卷十四の「酒蟲」を襲案された同名の短篇が本書一〇六一—一三頁に見える「吳郡の陸順、腹中の奇蟲を胡人に賣る話」と多少趣を一にしてゐるやうに思はれる事である。「酒蟲」に於ては一番僧（芥川氏は西域から來た寶幢寺の僧としてゐる）が長山の素封家で酒家の劉大成の腹中に宿つてゐる酒蟲を吐き出させる話で、劉はその日から酒の匂を嗅ぐのも嫌になり、それと共に彼の健康は衰へ家産は傾いて了つたといふのである。芥川氏は酒蟲の效については省略されるが原本に於ては「劉驚謝。酬以金。不受。但乞其蟲。問將何用。曰。此酒之精。甕中貯水。入蟲攪之。卽成佳釀。劉使試之果然」となつてゐる。

本書の卷末には長安附近古蹟圖と唐長安城坊圖との二葉が附せ

られてゐて甚だ親切周到なのが嬉しい。東洋史殊に唐代に於ける東西文化の交流に就いて關心を有して居られる方は勿論その他の人士も是非一本を備へらるべきである。敢てこゝに本書を江湖に紹介して欣快の微情を表すものである。(竹田龍兒)

アジア侵略秘史

(桑原三郎著
清水書房發行)

本書は新興アジア諸民族が皇國日本を盟主と仰ぎ、大東亞共榮圈の完遂に悲壯な決意を固め、渾力を擧げて蹶起するの止むなきに至つた必然的過程を闡明すると共に、更に過去に於ける歐米列強のアジア侵略に用ひし悪辣なる謀略政策の種類と發達とをみきわめて、如上の大東亞共榮圈の建設途上に於て、再度かゝる謀略にかゝることなき用意として、世に贈りしものと云ふ。

時恰も我が皇紀二千六百年の光輝ある歳に際會し、金鷄再び東海の天にあらはれて、光芒あざやかにアジア大陸の曉空を高く照らすに當り、十一億の諸民族は歡喜と感激とを以て景仰すると共に、嗚り渡る曉の神鐘に覺め、奮起し始めるに至り、即ち滿洲國あり、蒙古聯合自治政府あり、中華民國新中央政府あり、はた泰國等がある。然し我が總力を擧げての興亞聖戰の前途は猶ほ遠遠にして、且つ愈々多事である。この新興諸國の指導者たる我が皇國民が聖戰の由來を再認識し、更に今後の方策を試練せらるゝに當り本書は良き參考書の一であることを紹介する。

終に、昨秋、蒙疆、北支、中支を一巡せし余は、我が銃前銃後の國民共助して、事變終局の勝利を占めるまでには如何なる犠牲

にも堪へ、千苦萬難を克服して、アジアの奪還とアジア民族の解放の快舉に愈々勇往邁進し、アジア史否な世界史に一大改革を加へらるゝ秋なりと痛感すると共に、皇軍戰歿勇士の靈位と出征將士に滿腔の感謝の誠意を捧ぐる次第である。(武田勝藏記)